



ロータリーを实践しみんなに豊かな人生を

FUJIEDA ROTARY CLUB
藤枝ロータリークラブ会報
 例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL 054-641-3321
 事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040
 URL <http://www.fujieda-rotary.org/> E-mail club1972@fujieda-rotary.org

会長：大塚 博巳 副会長：池ノ谷 敏正 幹事：森下 敏顯 副幹事：鈴木 舜光

第2037回

- ソング 四つのテスト
- ソングリーダー 菅原 慎司君



【梅の花】

写真提供：鈴木 舜光君

会長報告

大塚 博巳君

静岡新聞 (3/24)

「大自在」に国際宇宙ステーションの若田光一船長の記事が載っていました。

現在、地球の上空400kmを飛行している若田船長は日本人初の船長として活躍されています。

その就任会見で「船長として、かじ取りの心掛けに“和の心”を上げ、夕食を一緒に取るようにしている」と述べたそうです。

宇宙飛行士の訓練では、自己管理能力や指導者の統率力と並んでチームワークが重要視され、一人ひとりの能力以上にチーム全体の能力が問われることになるそうです。

私達ロータリアンも毎週一回ではありますが、例会にて食事を一緒にしており、“同じ釜の飯を食う”仲間であります。

ロータリーも時代と共に変わってきている中、当クラブとしても「ロータリー財団 未来の夢計画」が初めてスタート致します。そのほかクラブの諸事業についても会員のチームワークがより必要になってくると思われます。

若い世代が増えてきた当クラブであり、時代の流れに乗ることも必要なことですが、藤枝RCとしての歴史で培われた伝統を継承することも大切であります。より強固なものとして、次年度に引き継いでいきたいと考えます。

藤枝市が進めておりました、大旅籠 柏屋隣の「岡部宿内谷本陣」の史跡が4月オープンとなります。



それに先駆けて、歌舞伎狂言の作者河竹黙阿弥

という方の原作(作品)“蔦紅葉宇都谷峠”が、3月21、22日に記念上演されました。その脚本・演出は当クラブの仲田廣志直前会長の娘さん「脚本家 仲田恭子さん」が監督していました。内容は原作の歌舞伎を現代風にコミカルにアレンジし、しかも本陣跡の広い史跡(2000㎡)をフルに活用し、立体感と迫力ある演出でありました。

当日は大変寒い日ではありましたが、出演者の皆さんの熱の入った2時間半の演技に圧倒されました。

本日の卓話は江崎会員の「長唄の楽しみ方」で日本の伝統文化そのものであります。よろしくお願いいたします。

以上、会長報告といたします。

幹事報告

森下 敏顯君

- ・第2620地区より
4月のロータリーレートのお知らせが届いております。
1ドル=102円です。
- ・第2620地区より
那覇西ロータリークラブ主催、サンゴ植え付けダイビング参加者募集のお知らせと親睦コンペのお知らせが届いております。
- ・藤枝市国際友好協会より
会報が届いております。
- ・次週例会／4月2日(水) 早朝例会
6時30分 蓮華寺池公園郷土博物館前
次々週例会／4月9日(水) 創立記念例会
18時30分 小杉苑

■ 出席報告

久島 正史君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
28/42 66.67%	34/41 82.93%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

○池ノ谷君 ○江崎晴君 ○河井君 ○小西君
○小林君 ○杉山君 ○畑君 ○松田君
○間野君 落合君 大杉君 鈴木透君
仲田晃君 村松君

(2)メイクアップ者

畑 昇君(焼津南) 間野 日出男君(焼津南)

■ 会員卓話

『長唄の楽しみ方』

江崎 友次郎君



私の趣味として居ります長唄について、長唄の楽しみ方と題して卓話としたいと思います。長唄は大変長い歴史のある邦楽で、日本古来の伝統芸能の一つであります。長唄を楽しむ。その方法は結論を先に申し上げれば、まず長唄を数多く聞く事です。しかし、長唄を聴く機会は現在ではとても少なく、ラジオやテレビでもあまり放送されず、やっとNHKの第二で平日金曜に「にっぽんの芸能」として、時たま放送されるだけでございますが、ここ藤枝に於きましては3年に一度、寅・巳・申・亥の年に、飽波神社大祭に藤枝の各区より14の屋台が町うちを長唄囃子にのせて引きまわされ、藤枝大祭り、藤枝の屋台と云えば長唄とは切っても切れないものとなって居ります。藤枝は芸どころとも云われる由縁は左車の大工棟梁で伊十郎さんと云う美声の人がいて、江戸に出て長唄六世芳村伊十郎として長唄家元となり、長唄の普及と共に藤枝にも愛好家が増え、祭典での屋台引廻し、長唄による地踊り披露が行われる様になりました。屋台の舞台上踊る上踊り。屋台がせまい関係で子供さんが踊りますが、現在では上踊りは下伝馬と左車の屋台だけとなり、他は全て道路で踊る地踊りで、主

として祭り青年男女によって、一屋台で三曲以上の長唄が披露されますが、この形態は現在では東海道の旧宿場町、藤枝・島田・掛川にのみ残されています。島田の大井神社の帯祭りは五台の屋台は出ますが、長唄による手踊り程度に簡素化されていますし、掛川の大祭では、遠州祭り囃子に力点が傾き、長唄による地踊りは一部の屋台を除けば、みなテープによる演奏として小規模になっている様です。その様な事から「長唄による地踊りの祭礼」全国調査で、長唄・三味線・囃子方というフルメンバーでの地踊り形態の祭礼は藤枝大祭りがその規模と質において日本一だと云われて居ります。そこで藤枝では長唄囃子を聞いても本来の長唄は知らなくても長唄を聞くとお祭りの歌だと思える人が多くいます。然し本来の江戸時代より伝承された古典芸能としての長唄は歌舞伎音楽であり、舞踊音楽として伴奏は三味線が主力であり、演奏囃子として笛・太鼓が加わることがあります。演奏会などで長唄を唄い演奏する時は、唄方一人と三味線一人を一調一枚と云い、二人どうしの場合を二調二枚と云う様に、三調三枚、五調五枚と、唄方と三味線方が右左同人数となります。三味線は弦は三本、棹は細く繊細な音色で、長唄他、清元、端唄、小唄などに使用されますが、音に関する感覚が要求され、特に調弦指で押える感処など、一人前になるには何十年もかかっている稽古練習が必要です。弦は撥と云う道具で弦をたたいたり、はじいたりします。時には爪ではじいたりもします。ここで有名な長唄曲を聴いて頂きます。まず最初に有名な越後獅子を時間まで聞いて下さい。からだ全体を使って歌うことは、健康な生活をおくるためにさまざまな好影響を与えます。歌う時の意識的呼吸が、心肺機能や自律神経のコントロール機能を高め、心身のバランスのとれた健康的な身体を保つことに役立つのではないかと考えております。「歌う」ということは老化を防止し、若さを保つ妙薬だとも云われています。長唄に限らず大きな声を出す為の腹式呼吸による歌を唄う事は、たしかに健康にも役立つのではないのでしょうか

(担当/菅原君)